

令和 7 年度

事業計画

- 1 介護老人福祉施設「緑愛園」・「青葉のまち」・「サポータィ・もみじ台」
- 2 通所介護デイサービスC「緑愛園」・「青葉のまち」
- 3 短期入所生活介護ショートケア「緑愛園」・「青葉のまち」
- 4 訪問介護事業所「サポータィ・もみじ台」
- 5 居宅介護支援ケアサポート「緑愛園」・「青葉のまち」・「サポータィ・もみじ台」
- 6 札幌市清田区第1・第2地域包括支援センター（札幌市委託）
- 7 札幌市清田区第1・第2介護予防支援事業所（札幌市委託）
- 8 札幌シニア福祉機構 研修事業部（自主事業）



社会福祉法人

札幌シニア福祉機構

【社会福祉法人札幌シニア福祉機構 理念】

「私たちは、人の幸せを望みます。」

～We Wish a person Well (3W ビジョン)～

【私たちは、常に利用者の方にベクトルを向けて、福祉のプロフェッショナルとして高い倫理観と責任感を堅持し、新たな発想で新たな「幸せ」創りに貢献します。】

～ 目 次 ～

基本方針

・・・ P2～3

【事業方針】

【事業目標】

I 法人経営・施設運営

・・・ P4～8

① 経営管理部

② 事業推進部

③ 介護人材対策

※ 公益事業『札幌シニア福祉機構 研修事業部』

II 各施設事業計画値

・・・ P9～10

III 職員配置計画

・・・ P11

IV サービス方針

・・・ P12～28

【緑愛園】

① 相談支援課

② 生活支援課

【青葉のまち】

① 相談支援課

② 生活支援課

【サポーティ・もみじ台】

① 相談支援課

② 生活支援課

【地域包括支援センター（札幌市委託）】

① 清田区第1地域包括支援センター（清田区第1介護予防支援事業所）

② 清田区第2地域包括支援センター（清田区第2介護予防支援事業所）

令和 7 年度 事業計画

基本方針

【事業方針】

令和 7 年度は、第六次中期経営ビジョン 3 カ年計画（令和 5～7 年度）の最終年となります。重点課題に設定した①緑愛園新築移転建替え②新たな施策による人材定着③C【チェック】の強化について、全職員が実行する上での視点に位置付けた、「Ⅰ自己実現と成長（やってみよう）」・「Ⅱつながりと感謝（ありがとう）」・「Ⅲ前向きと変化（あきらめない）」のもと、諸課題に対して最終点検の 1 年となるよう進めていきます。

緑愛園新築移転は、竣工後すみやかに転居できるよう準備を励行します。また、移転を機に施設名及び法人名を変更するために関係機関等への手続きに不備がないよう努めます。

人材定着については、新たな雇用形態の選択、職員育成のための各種研修スタイルの改良及び長期就労職員の慰労金改定など職員の就労環境のさらなる向上に努力します。

利用者サービスは、着実かつ適切に提供できているか、さらなる仕様が高められているかなど点検の強化をはじめ実行・実践力が継続できるよう、職員各自及び役職員のセルフマネジメント力の向上に努めます。

Ⅰ 法人経営

- ① 緑愛園新築移転が 7 月に完了できるよう、工事進捗監理・資金手配・必要備品の納入準備・各種変更手続き・旧建物取壊し及び跡地売却などを着実に進めていきます。
- ② 第 6 次中期経営ビジョン 3 カ年計画を最終検証し、第 7 次中計を立案します。
- ③ 介護人材の確保として、外国人労働（特定技能など）及び高校卒業生採用の強化について、実務的な検討を行います。
- ④ 施設稼働率・在宅サービス利用率の安定及び利用者確保のため、前年度に立案した諸施策の進捗管理を徹底します。（拡大経営会議での議論継続）

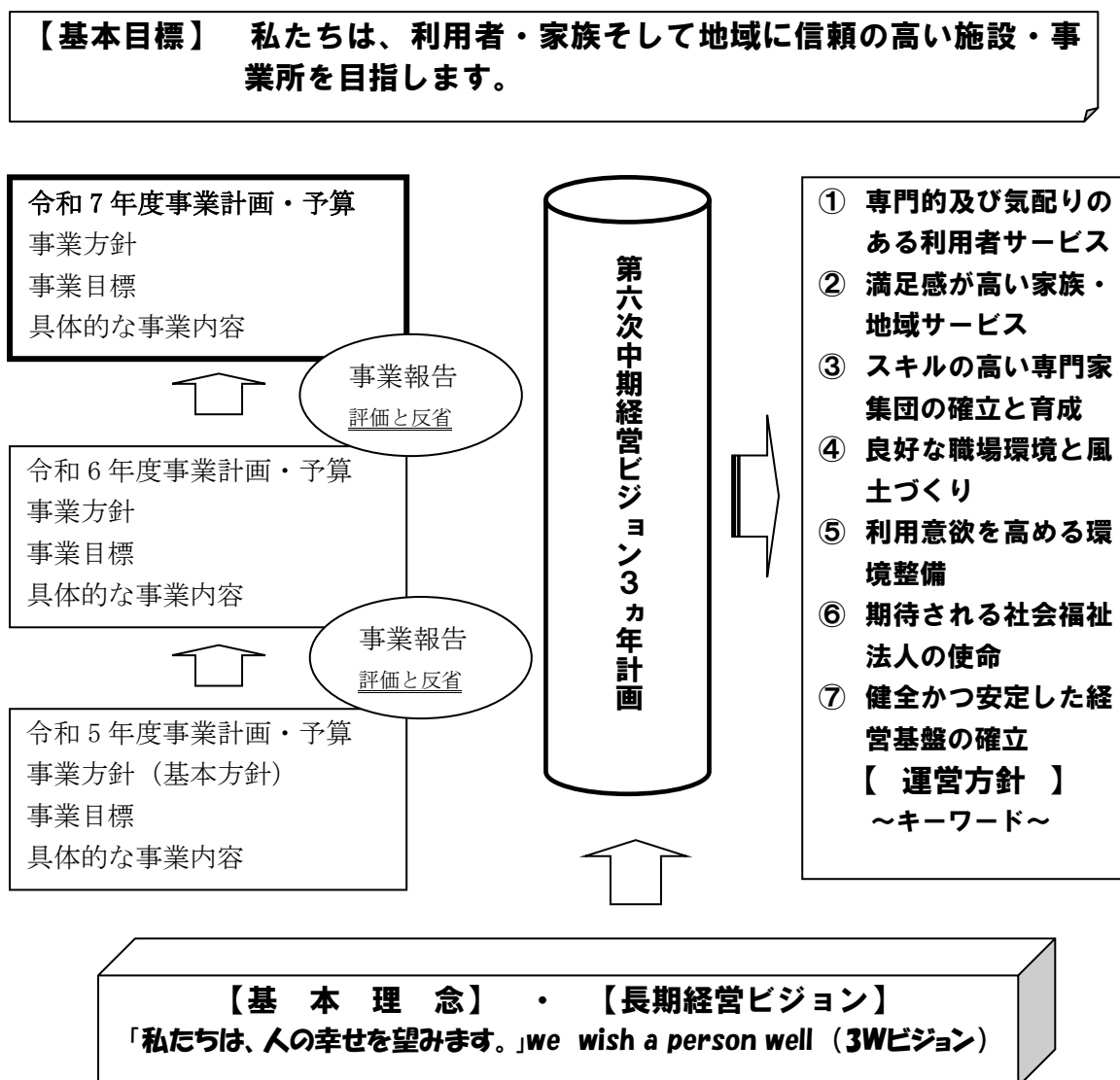
Ⅱ サービス

- ① 介護ロボット機器及び ICT 導入による生産性向上や業務省力化が実感できるよう、効果検証に努めます。
- ② 介護主任（業務担当・育成担当）の役割と職務を見直し、サービス管理と職員育成に費やす時間を十分に確保します。
- ③ 施設所在近隣地域との関係性の再構築及び地域福祉ニーズへの貢献のため、関係機関・関係者とのネットワークを強化します。
- ④ 現場に配布している業務・サービス関連マニュアルの活用実態を調査し、大幅な見直しを図ります。

Ⅲ 職員労働環境

- ① 長期就労職員の永年勤続慰労金を増額改定し、職員定着の一助とします。
- ② 職員研修制度を見直し、一般職及び役職者のスキル向上に努めます。また、自己啓発の推進に向けて資格取得の支援について再構します。
- ③ 法人・施設の事務処理及び労務管理・人材採用等の手続きを検証し、業務省力化・標準化のための仕事内容・担当者配分の見直しを行います。
- ④ 休暇制度や福利厚生及び諸手当の見直しを検討し、正規・非正規職員の均衡を図ります。

【第六次中期経営ビジョン3ヵ年計画と令和7年度事業計画（確認）】



I 法人経営・施設運営

1. 経営管理部

- ① 第六次中計(令和5年～7年)の総括を行い、第七次中計(令和8年～10年)を策定します。
- ② 法人名の改名手続きおよび緑愛園移転に伴う施設名変更手続きを着実に進めます。
- ③ 緑愛園建替の工事竣工移転に合わせ、借入を含む資金計画を着実に推進すると共に、関連支出や借入金返済負担による現預金減少後の資金繰り管理及び自己資金確保に向けた資金収支差額の目標達成に向け対応していきます。
- ④ 介護人材対策委員会の運営を継続し、離職要因の分析や新たな雇用形態・労働条件を中心とした職員定着策を協議し実行に繋がります。また、各施設・事業所での定着策の点検の強化等も行い、離職率目標の達成を目指します。
- ⑤ 介護職員の採用強化策として、外国人や高校卒業者の採用強化検討、介護福祉士養成校等の繋がり強化、潜在有資格者の発掘、手当新設の検討等を進めます。
- ⑥ 介護職員等処遇改善加算を活用した賃金の改善により職員の処遇改善を継続するほか、最低賃金上昇に伴う正職員賃金への対応について検討します。
- ⑦ 「同一労働同一賃金」の具体的施策について専門委員会を立ち上げ議論します。
- ⑧ 「勤怠管理システム」の評価検証と有効活用を行います。
- ⑨ 施設管理体制の課題抽出を行い、施設機構図の見直しを検討します。

2. 事業推進部

- ① 施設入居者の待機者確保対策として、身寄りなし高齢者の受入れ体制(契約締結・金銭管理・医療行為)を検討し申し込み者の増加を図ります。また、入院加療を必要としなくなるように日常生活支援の質を高め在所期間の長期化を図ります。
- ② 令和7年7月の桜テラス平岡への入居者移転計画を立案し、効率的且つ事故防止に努めた移転を行います。
- ③ 旧緑愛園の建物解体工事を円滑に行い、令和7年度中での跡地売却に向け関係機関との連携を強化します。
- ④ 介護ロボット機器及び ICT 利活用に伴う介護職員の業務効率を検証していきます。また、新機種導入に伴い施設間での情報共有を行い今後の導入計画を検討します。
- ⑤ 全事業に対する事業所評価を含めた内部事業監査を継続します。具体的改善計画を立案し実践することで各事業におけるサービスの質の向上を目指します。
- ⑥ 各施設のマニュアルのリストアップ及びデータ収集を行い情報の共有化を図ります。共有化後は生活支援課及び相談支援課において活用を協議します。
- ⑦ 職員研修要綱の改定及びキャリアパスフレームの更新を見直します。また、新たな職員研修体制を構築し、職員全体の質及びモチベーション向上に努めます。
- ⑧ 認知症介護実践研修では新型コロナウイルスに伴う他施設実習中止の経過措置が終了する為、今後の実習受け入れ先を整備し円滑な実習体制を構築します。

3. 介護人材対策

- ① 介護人材対策委員会の運営を継続し、職員定着対策を協議します。
- ② 介護主任(業務担当・育成担当)体制の再評価をします。
- ③ 介護のやりがいを感じられる職員育成体制を検討します

重点項目	中項目	細目
人材・ 人員確保	高校及び一般大学等卒業生の採用	大学生及び高校生インターンシップ受入等の提案
		リクルートパンフレットの見直し
	介護人材対策委員会の 設置・運営	介護主任(業務担当・育成担当)体制の再評価
		介護職員定着策の検討
職員定着 その他	育成体制の強化	介護主任・介護副主任・リーダーの職員指導について 共有
	退職者の離職要因分析 と対策の実行	介護人材対策委員会における対策の検討と実行

令和 7 年度 人材対策計画

	中項目	細目	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
人材・人員確保	高校及び一般大学等卒業者の採用	大学生及び高校生インターンシップ受入等の提案	提案	訪問				提案	訪問					
		リクルートパンフレットの見直し			検討	実施								
	介護人材対策委員会の設置・運営	介護主任(業務担当・育成担当)体制の再評価				検討	→			提案				
職員の定着化	育成体制の強化	介護職員定着策の検討	検討	検討	実施	→	検討	実施	→	検討	実施	→		評価
		介護主任・介護副主任・リーダーの職員指導について共有	提案		実施			実施		実施		評価		
	退職者の離職要因分析と対策の実行	介護人材対策委員会における対策の検討と実行	検討	検討	実施	→	検討	実施	→	検討	実施	→		評価

【公益事業・札幌シニア福祉機構 研修事業部】

	セグメント	概 略	令和 7 年度の計画値・取組み
研修研究事業	①	介護職員初任者を養成 ～北海道指定養成機関～	2、3 月（藤女子大学） 計画 15 名の修了者
	②	認知症介護実践研修 （実践者研修）	6、8、9 月開催（年 3 回） 計画 105 名の修了者
	③	認知症介護実践研修 （実践リーダー研修）	7、11 月開催（年 2 回） 計画 80 名の修了者
	④	認知症対応型サービス事業 管理者研修	10 月開催（年 1 回） 計画 10 名の修了者
地域連携事業	①	介護職業理解の促進 未経験や介護資格保有者を対象に職場見学会とガイダンスを開催	各種学校の在学生・一般受講者向けに開催

※ その他、公益事業として可能性のある事業の検討を随時行う。

※ 認知症介護実践研修(実践者研修)1 回目は、サポータィ・もみじ台の地域交流スペースで開催いたします。

※ 引き続き令和 7 年度も認知症介護実践研修(実践リーダー研修)を増回している為、現任専門職研修(自主事業)は中止します。

Ⅱ 各施設事業計画値

【緑愛園】※7月より桜テラス平岡に変更

	事業名	定員	稼働率	計画値	令和6年度見込
1	介護老人福祉施設	82+3 (85)	97.1%	1日 82.5名 平均介護度 3.92	76.2名
2	短期入所生活介護	12-3 (9)	99.4%	1日 8.95名 平均介護度 3.06	9.9名
入所計		94	97.3%	1日 91.45名	86.1名
3	通所介護 (一般)	45		1日 28.5名	27.3名
	(総合)			1月 30.0名	32.2名
4	居宅介護支援 (介護) (予防・総合)			月請求 240.9件 月請求 46件	271件
	支援計			計 286.9件	

※緑愛園の計画値は桜テラス平岡移転後の数値とする。

【青葉のまち】

	事業名	定員	稼働率	計画値	令和6年度見込
1	介護老人福祉施設	70	95.7%	1日 67.0名 平均介護度 4.12	63.1名
2	短期入所生活介護	10	82.0%	1日 8.20名 平均介護度 2.75	8.0名
入所計		80	94.0%	1日 75.2名	71.1名
3	通所介護 (一般)	39		1日 27.0名	24.2名
	〃 (総合)			1月 16.0名	13.8名
4	居宅介護支援 (介護) (予防・総合)			月請求 160.7件 月請求 50.0件	194件
	支援計			計 210.7件	

【サポータィ・もみじ台】

	事業名	定員	稼働率	計画値	令和6年度見込
1	介護老人福祉施設	80	96.1%	1日 76.9名 平均介護度 3.94	74.4名
2	訪問介護	280		月 965時間	905時間
3	居宅介護支援 (介護) (予防・総合)			月請求 170.1件 月請求 62件	220件
	支援計			計 232.1件	

【地域包括】

	事業名	定員	稼働率	計画値	令和6年度見込
1	第1介護予防事業所		要支援1 要支援2 再委託 総合 総合（再）	月請求 112件 月請求 166件 月請求 76件 月請求 190件 月請求 56件	576件
	予 防 計			月請求 600件	
2	第2介護予防事業所		要支援1 要支援2 再委託 総合 総合（再）	月請求 172件 月請求 258件 月請求 120件 月請求 323件 月請求 65件	912件
	予 防 計			月請求 938件	

※令和6年度見込みについては、12月末データを基に作成。

Ⅲ 職員配置計画

職種	緑 愛 園			第1包 括	第2包 括	青葉のまち			サポーター・もみじ台		
	施設	通所	居宅			施設	通所	居宅	施設	訪問	居宅
施設長	1					1			1		
相談支援課長	1					1			1		
生活支援課長	1					1			1		
センター長（課長）				1(社)	1(主)						
医務主任	1					1			1		
介護主任	3	1				3	1		3	1	
相談支援主任						1			1		
居宅支援主任			1					1			1
包括支援主任				1(保)	1(社)						
看護師	3	+2				3	+2		3		
機能訓練員	1					1			1		
保健師等				2	4						
主任ケアマネ				2	1						
社会福祉士等	2	2		3	5	1	2		1		
ケアマネ	1		5+1	3	3+2	1		4	1		4
サ提供責任者										4	
介護職員	20+11	6+3				21+20	5+2		27+12	+15	
日常生活サポーター	+7					+6			+20		
管理栄養士	1					1			1+1		
栄養士						1					
調理員						+9					
事務職員	1		+1	+1	+1	1		+1	1		+1
設備員	+1					1			+1		
カフェ・喫茶						+2			+1		
守衛						+2			+3		
計	35+19	9+5	6+2	12+1	15+3	39+39	8+4	5+1	43+38	5+15	5+1
合計	50+26			27+4		52+44			53+54		

（＋は契約A～D職員・嘱託職員・パート職員） ※介護職員・日常生活サポーターは、勤務時間数により人数変更が伴います。

職種	法人本部	備考
事業推進部長	1	
経営管理部長	1	
介護人材対策課長	1	
スタッフ	2+1	研修事業＋事業推進＋経営管理
計	5+1	

管理職	14
正職員	173
嘱託	1
臨時・パート（夜勤専門含）	128
合計	316

IV サービス方針

● 緑愛園 ●

【全体】

7 月の移転とその後のサービス提供を安全に行うために令和 7 年度前期は図面やパースを使用した職員及び利用者の行動動線のシミュレーションを実施します。後期は新施設でのサービス提供による課題の明確化と PDCA サイクルによる修正と改善を行い、早期に安定したサービス提供を目指します

（相談支援課）

- ① 移転先地域に地域交流スペース等の介護保険サービス以外の活用イメージを広報します。
- ② 新施設のサービス内容について他機関・他事業所へ積極的に PR し、新たな利用者を獲得します。
- ③ ICT や AI などの新技術を活用した業務削減の検討と提案を行います。

（生活支援課）

- ① 移転に伴う影響を受けることなく利用者が生活できるようにサービス提供を行います。
- ② 新しい環境へ変化することで今まで以上にインカムや ICT 及び新たな職員スペースを活用し、職種を問わずコミュニケーションを強化します。
- ③ 新施設での感染症発生や災害時などの有事に備え、新たな環境で訓練を実施します。
- ④ 新たな嘱託医及び協力病院との関係構築を急務とし、課題の整理と修正を随時協議します。

● 青葉のまち ●

【全体】

第六次中期経営ビジョンの最終年度として、施設全体では安定した経営基盤の確立に向けたチェック体制を強化し、入院日数の減少と待機者確保、新規の利用者確保等の強化に努めます。

職場環境においては、働きやすい職場づくりを目的として休憩環境の整備の他、職員の声を反映させた職場環境の改善に努めます。また、ユニットで起こる諸課題に副主任・リーダーが解決できるようリーダー養成に注力いたします。

施設部門では、オンコール体制の変更に伴った新たな夜間の支援体制を確立いたします。

（相談支援課）

- ① 待機者確保策のため身寄りなし高齢者の受け入れ体制の検討の他、生活保護受給者受け入れ拡充のための検討を行います。
- ② 安定した利用率確保のため、ショートステイ（空床利用型）の利用の拡充に努めます。
- ③ 令和6年度に新たに取り組んだ加算及び運営基準の実施状況を点検し、継続的な実施に繋がります。
- ④ 地域組織の変化に伴い、施設における地域支援体制の再構築を図ります。

（生活支援課）

- ① 施設全体のケアの質の向上を図るため、ユニットケア・認知症ケアの理解を深めます。
- ② 医療機関の変更に伴う施設における終末期支援のあり方について検討します。
- ③ 業務関連マニュアルの活用実態を確認し、現状に則した内容に修正を図ります。
- ④ 通所部門では昨年度新たに作成したコンセプトに基づく企画をより多く実践し、次年度以降に継続的に実施できるよう検証します。

● サポートィ・もみじ台 ●

【全体】

和 7 年度は、第六次中期経営ビジョン 3 カ年計画の最終年となります。重点課題で上げられた C【チェック】の強化を継続し諸課題に向き合い、課題改善に繋がれるように取り組みます。

施設部門では、見守り機器の導入が 40 台となりました。現在、利用している ICT 機器などの使用状況の検証から、効果的な活用につなげます。また、令和 3 年度から行っている宿直体制の評価と在り方について検討します。訪問部門では、ICT 機器の導入を行い日常業務の効率化から、派遣時間数を確保し稼働率を向上します。

地域支援においては、地域内他法人と発足した地域支援組織の活動を継続し、連携強化に努めていきます。

（相談支援課）

- ① 新たな加算取得を進め、効果的な運用管理に努めます。
- ② 入居待機者確保に向けた潜在的顧客に対するアプローチと検証を行います。
- ③ 新規利用者獲得に向け、施設・在宅部門が連携し効果的な PR を行います。
- ④ 地域内他法人と発足した地域支援組織の運用を進め、地域との連携を強化します。

（生活支援課）

- ① ICT 機器を効果的に活用し、業務効率の向上を促進します。
- ② 職員定着に向け、介護主任・介護リーダーの業務内容を見直し、職員育成の強化に努めます。
- ③ 着実かつ適切なサービス提供に向け、基本的な業務内容を精査し職務の見直しを行います。
- ④ 稼働率の安定に向け、入院者の減少に努められるように生活環境や標準的なサービス内容の点検強化を継続します。

●清田区第1・2地域包括支援センター●

札幌市高齢者支援計画 2024 の基本目標『いくつになっても住み慣れた地域で希望と生きがいをもって自分らしく暮らし続けることができるまちづくり』の継続実現を目指し、清田区の地域包括ケアシステムの更なる深化・推進にむけた体制構築及び課題解決と調整を担う中核的機関として対応力の強化を図ります。

併せて、当法人が、清田区の 2 つの包括支援センターを受託している強みを内外に発揮します。

- ① 支援が必要な高齢者等(特に介護保険サービス未利用者)が孤立することなく早期に発見され支援に繋がるよう地域全体をサポートするとともに、対応力を向上し、包括機能の強化を図ります。
- ② 「包括的・継続的ケアマネジメント支援業務における環境整備」を推進するため、清田区地域特性の把握と課題分析に基づき、関係機関等や地域住民とのネットワークを強化します。
- ③ 職員定着とサービスの質の向上のため業務の点検を継続し、効率化及び削減を行い持続可能な体制づくりに取り組みます。
- ④ 地域包括支援センター受託法人として、法人内部連携の強みを最大限発揮できるよう取り組みます。

V 各事業部門計画

【 緑 愛 園 】

[個別支援サービス]

重点項目	計画内容		部門
1. 持続可能なケアの推進	ICT 利活用の発展と効率的サービスの提案・提供	ICT や介護ロボットの活用を考慮し、利用者の介護状況に合わせた居室選択を実施する	施設部門 通所部門
	新施設を見据えた介護ロボット活用提案と導入検討	新施設は新たな見守り機器を導入するため、図面を活用したシミュレーションを繰り返し実施し早期の支援体制を確立する	施設部門
	現設備(ケアコールなど)の不便を洗い出し、新施設に向けた改善点・改良点の整理と導入を検討	ケアコールと見守りカメラを一体化し、カメラの位置や生態センサーの具体的な運用シミュレーションを行う	施設全体
2. サービスの再構築と充実	新施設を見据えたサービスコンセプトの再構築	新施設の機能に沿ったコンセプトの確立と職員周知及び理解を促進する	施設部門 通所部門
	With コロナ時代に突入したため、来客や来館家族等に対する接遇マナーの再確認と研鑽	職員による接遇マナーの自己点検を継続すると同時に面会時の感染対応については今後も家族理解を促す	全部門
	入居者/利用者の食事量低下に伴う、食事提供方法・提供回数等、適切なサービス提供を確立	新施設の設備を活かした食事提供方法を再検討する	施設部門 通所部門
3. スキルの増強と再確認	食事摂取困難者の増加により、食事提供方法・提供スキルの確認と技術のアップデートを実施	入居者の身体状況に合わせて新施設で購入するテーブルや椅子の高さについてフィッティングを精査する	施設部門 通所部門
	日常的アセスメントスキルの向上及び獲得した情報を記録に反映する手法の再構築(ICT 等)	ケアコール連動型のカメラを用いたアセスメントについて、施設全体での事例の蓄積と共有が可能となる仕組みを検討する	施設部門
	地域に住むシルバー人材の就労ニーズと利用者支援を結合する仕組みの確立(目標修正) 作業内容の細分化と地域の就労ニーズとのマッチングを検討	(目標修正) 施設内における非専門的作業を細分化し地域の就労ニーズとのマッチングの可能性について検討する	施設部門 通所部門

[社会資源の発掘及び地域支援強化]

重点項目	計画内容		部門
1. 新たな地域へ の下地作り	移転先地域の情報収集と 地域課題の分析	新施設に隣接する保育園と協働できる活動 内容について検討と提案を行う	相談支援課
	新たな資源の発掘とネット ワークづくり	近隣町内会に対して施設コンセプトのPRと 活用案内を広報する	全部門
	移転後の地域における新 たな施設機能の検討と構 築	近隣住民や学生が施設を気軽に利用でき る具体的なイメージについて PR 活動を実 施する	全部門
2. Withコロナに おける地域との 関り	教育機関との連携体制の 再構築	施設内の受け入れ体制の強化と新施設で の実習指導手法を明確化する	全部門
	福祉教育を通した多世代 交流	参加型の活動を計画し、近隣小中学校の 生徒が福祉に触れる機会を創出する	全部門
	遠隔技術を駆使した地域 支援の展開 (目標修正) SNS を活用した「桜テラス 平岡」のPR方法の模索	(目標修正) 移転後は施設名が変更になることから「緑 愛園＝桜テラス平岡」であることを積極的に 広報する	相談支援課
3. 地域支援の新 たな形	移転に向け既存利用者の 利用料支払いに関する把握と説明責任	移転まで継続的に新施設に関する情報提 供を行い利用者の不安解消に努める	相談支援課
	移転を見据えた上北野町 内会との協力体制の在り 方についての検討 (目標修正) 移転先の地域との関係性 を構築する	(目標修正) 移転先の平岡町内会や近隣施設との連携 を強化するため関係性の構築方法を模索 する	相談支援課
	他事業・他施設との連携 から地域支援のあり方を 構築	新たなハードでもスムーズな事業間連携が 図れるよう課内の情報共有を強化する	相談支援課

[サービス環境]

重点項目	計画内容		部門
1.新施設構想	社会福祉事業発展を目指した教育機関とのコラボレーションの検討と確立	新施設の地域交流スペースのキーワードである「学習と交流」に沿ってスペースの活用ルールを検討する	施設部門 通所部門
	学童保育等の機能を併設した事業展開の可能性の探求と運営の検討 (目標修正) 近隣保育園との連携体制の構築と両事業のスキルを活かした地域支援体制を模索する	(目標修正) 近隣住民や保育園から地域課題の情報収集を行い支援体制の在り方について検討する	全部門
	感染症及び不測の事態に強いハードとソフトの確立	移転前までに図面を活用し新・感染対応マニュアルと防災マニュアルを作成し、移転後に対応訓練を実施する	全部門
2.介護・看護・栄養等業務の改善	データ分析から多角的に介護業務を捉え、時代に適した業務形態への変革	新施設において職員の通勤事情を把握し、夜勤の開始時間、その他シフトの開始時間等を再検討する	全部門
	効率性・機能性等、職員の働きやすい環境の検討と構築	効果的な収納スペースや ICT 機器等を実際に活用し、より働きやすい環境へ発展させるため、新たな課題抽出と改善を行う	全部門
	新たな協力医療機関との連携や協働的利用者支援のため提携先の発掘	新たな協力医療機関との関係を構築するため、日常的な課題の整理と改善を協力病院に提案する	施設部門
3.DXソリューション	ICT/IoT/スマート家電等の導入を検討し、業務効率を向上	Web 請求システム「つながる家族」の利用案内を継続的に実施し特養利用者の 7 割程度の活用を目指す	施設部門 通所部門
	適切な室温・適切な湿度を常に保持できる機器の情報を収集し導入を検討	建て替え後のランニングコストをモニタリングし移転前後のコストカットについて数値化する	施設部門 通所部門
	入居者の身体レベルに合わせた介護ロボットが備わった居室の提案	新施設の設備との連動と費用対効果を考慮しながら新たな介護ロボットの情報収集と導入を検討する	施設部門

[施設運営の健全化]

重点項目	計画内容		部門
1.介護職員の定着強化	職場内の安定的人間関係や心理的安全性が高められるような仕組みの検討と構築	Unipos 利用活性化について、職員を巻き込みながら誰もが称賛しやすい環境と風土を構築する	全部門
	スタッフ育成のための OJT 機能を再構築	介護人材対策委員会で検討した条件と緑愛園独自の育成に関する必要十分条件を育成主任が中心に再確認し書面化する	生活支援課
	介護実習生が当施設へ入職を希望し、採用・定着が可能となるよう、実習教育のあり方・協働体制の構築	外国人実習生が多くなっている昨今、実習指導の在り方に対して、養成校と打ち合わせを密に行い実習指導体制の強化を図る	施設部門 通所部門
2.利用者の拡大	新施設への移転と新コンセプトの PR	写真やパースを活用した利用者向け広報活動を継続的に行い移転に対する楽しみが持てるような取り組みを継続する	全部門
	居宅支援⇒在宅サービス⇒施設サービスと一貫的サービス提供の仕組みを強化	施設内の在宅サービスを複数利用している事例について事業所協働でアセスメントを行い連携したサービス提供を継続する	全部門
	低所得者や身寄りなし高齢者、介護保険サービス以外の福祉サービスが必要な利用者などの支援の検討と展開	一般的に特養では受け入れがたいケースの入居を積極的に検討し、課題の整理と改善・対応策について書面化する	相談支援課

【 青葉のまち 】

[個別支援サービス]

重点項目	計画内容		部門
1. Withコロナでの支援確立	①感染対策を考慮した余暇支援の実施	感染対策を行いながら、家族・ボランティアが参加できる余暇活動を再開する。	施設部門 通所部門
	②家族面会の再開と家族参画介護の実践	家族面会だけでなく外出・外泊についても段階的な緩和を進める。	施設部門
2. ICT活用の促進	①見守り支援機器の活用 の評価と運用方法の検討	生産性向上委員会と連動して見守り支援機器の活用の評価と運用の検討を行う。	施設部門
	②記録業務の効率化	ボイスファンとケアパレットの研修を定期的に行い、全職員の記録内容の標準化を図る。	施設部門
3. 専門的ケアの実践	①最新介護技術の習得	全職員を対象としたオムツのあて方の研修を行い、介護技術の底上げを図る。	施設部門 通所部門
	②実習指導体制の強化	モデルユニット(2番館)で受け入れを行い実習指導体制の強化を図る。	施設部門

[地域との連携]

重点項目	計画内容		部門
1. 地域支援活動の再構築	①地域住民向けの企画立案と実施	あおば福祉推進協議会が活動終了予定となっているため、新たな地域の担当窓口と協議し地域向けの企画を立案する。	相談支援課
	②新たな参加者の開拓を目的とした活動状況の発信	いきいきサロンやボランティアの活動状況をホームページやInstagram等で定期的に発信し、活動の見える化を図る	相談支援課
2. 地域福祉活動の促進	①地域とのネットワークの再構築	新たな地域の担当窓口との関係構築を進めていく他、会館改修のため一時的に施設利用する老人クラブとの関係を構築する。	相談支援課
	②施設における地域支援体制の再構築	地域の組織体制が変更となるため、それに伴った新たな地域支援活動を再構築する。	相談支援課
3. ボランティア	①With コロナによるボランティア活動の再構築	ボランティアミーティングを再開し、ボランティアの意見・要望を確認しながら充実した活動に繋げる。	施設部門 通所部門
	②ボランティア確保に向けた取り組み	社協等への案内依頼、ホームページやInstagramへの掲載、施設内の掲示等を継続的に行う。	施設部門 通所部門

[サービス環境]

重点項目	計画内容		部門
1. 経費節減	①節約効果の見える化の推進	電気使用量や備品の使用量、料金の推移等を見える化し節約への意識付けに繋げる	全部門
2. 通所事業の再構築	①「また利用したくなる」と思えるサービスの確立	新しいいいコンセプトに沿った企画を通所会議でプレゼンし計画的に実践する。	通所部門
	②重度認知症及び重介護利用者への支援の強化	認知症や対応困難ケースに対するカンファレンスを定期的に実施し、ケアマネや家族に情報発信する。	通所部門
3. 業務評価と業務改善	①サービス評価制度の実施と効果的な運用	サービス評価制度を活用した内部監査を実施し、評価内容をリーダー会議で協議して改善に繋げる。	全部門
	②食事提供変更後の評価と行事や四季を感じる食事方法の企画立案	アンケートや食事管理委員会で挙げられた内容をもとに四季を感じる献立となるように改善を図る。	施設部門

[施設運営の健全化]

重点項目	計画内容		部門
1. 職員の定着強化	①コロナ終息後を見据えた休憩環境の整備	衛生委員会で行ったアンケート内容を基に順次改善していく。1階奥の休憩室は改修工事行い、仮眠できる環境作りを行う。	全部門
	②ハラスメント防止の推進	ハラスメント防止に向けた取り組みを職員会議や研修を通して啓発する。	全部門
	③職場環境改善の推進	衛生委員会で行ったアンケートの内容を精査し、協議する担当を委員会、各部門、施設で分けし改善に繋げる。	全部門
2. 利用者の拡大	①リピーター率の向上を目的とした「魅力あるショートステイ」の整備	余暇活動を充実させ「利用して楽しい」と思えるサービスを検討する。居室の環境については改修後の状況を評価し、他の居室改善に繋げる。	短期部門
	②エリア分析に基づいたPR活動の実施	エリア分析から導き出した事業所への継続的な訪問・PRを行い、新規利用者の獲得に繋げる。	全部門

【 サポート・もみじ台 】

[個別支援サービス]

重点項目	計画内容		部門
1. 認知症ケアの推進	①認知症支援の質の向上と、職員指導向上の為、認知症実践者及びリーダー研修の受講促進	認知症支援の質と職員指導の向上を図る為、ユニットリーダー研修、認知症実践者研修、認知症実践リーダー研修に派遣する	施設部門 訪問部門
	②認知症高齢者の安心した生活に向け、BPSDに対する支援方法の理解と実践	BPSD に対する支援方法の理解を高める為、年間計画を作成し専門研修受講後の伝達研修を計画的に実施する	全部門
	③認知症高齢者への環境支援に向け、PEAP 指針の活用と改善	キャプション評価を行い、入居者が安心して過ごす事が出来るように環境の改善を図る	施設部門
2. サービスの充実	①安全で安心出来る日常生活に向け、感染症への理解を深めた新たな生活スタイル（外出・面会など）の構築	外出・外泊・面会時間の制限解除後の生活状況と感染対策の実態を検証する	施設部門
	②サービスの充実に向け標準的な介助方法の統一化と入居者視点に立った個別ケアの実践	入浴を焦点に標準的ケアを明確化し、職員へ周知する。また、個別ケアの実践状況をリーダー会議で検証する	施設部門
	③アドバンス・ケア・プランニングの継続的実践と評価	入居者及び家族の意向に基づいた支援が行われているか、アンケート調査を行い評価する	施設部門
3. 職員間連携の強化	①信頼される立ち振る舞いと、円滑なコミュニケーションに向け、ビジネスマナーの獲得と実践	職員間連携の強化に向け、コミュニケーションを軸にした、ビジネスマナーの取り組みを実施する	全部門
	②職種間の相互理解を深め、チームアプローチを強化	多職種理解を深める為、入職1～2年の職員を中心に多職種体験を実施する	施設部門 訪問部門
	③各種情報を効果的に活用するため、報連相の強化	申し送りの情報が効果的に実践されているか、検証する	施設部門

[地域との連携]

重点項目	計画内容		部門
1. 地域との連携	①小・中学校への福祉教育支援に向けた取り組み	小・中学校への福祉教育として出前講座等を実施する	全部門
	②多様化する地域課題の対応に向け、地域内他法人と協働し地域支援を实践	地域内他法人間連携に向けた検討会を継続的に開催し、地域支援を展開する。また、その取り組みについて評価する	全部門
2. ボランティアの拡充	①やりがいと、安心感あるボランティア活動に向けた受け入れ体制の再構築	ボランティア受け入れ状況を評価し、やりがいと、安心感あるボランティア活動に向け、今後の課題等を整理する。	施設部門
3. 地域の活用	①関係機関及び社会資源の可視化による、地域力の活用	社会資源を可視化した内容から、地域とのつながりを強化する方策を検討する	全部門
	②医療、福祉系学校と協働による、地域ニーズに応じた検討と実践	地域住民へ人命救助における応急手当講習会を継続開催し評価する	全部門

[サービス環境]

重点項目	計画内容		部門
1. 介護業務の改善	① 定期的な業務改善と検証	生産性向上委員会において、日常業務における課題の改善を図る	施設部門
	② 介護主任及びリーダー職の業務改善	超過勤務の実態から、主任及びリーダー職の役割と業務内容の精査を行い、改善を図る	施設部門 訪問介護
2. ICT 等の各種機器の効果的活用	① 介護ソフト及び通信機器等の効果的な活用（介護ソフト、ネックスピーカー、モバイル）	介護ソフトの活用状況を検証し、効果的な運用に繋げる	施設部門 訪問部門
	② 業務効率と入居者支援の充実に向け、眠りスキヤンの更なる活用	業務体制の合理化に向け、眠りスキヤンの更なる活用を模索する	施設部門
3. スキル向上	① OJT 機能強化に向けた育成力の向上	業務担当主任が中心となり、リーダー職へ OJT 場面の振り返りを計画的に実施する	施設部門
	③ 実習生に対する指導・育成力の向上	育成力を高める為、育成担当主任を中心に指導対象職員を選定し計画的に育成する	施設部門

[施設運営の健全化]

重点項目	計画内容		事業区分
1. 介護職員の定着強化	①組織の安定と活性化に向けた「意図的な介入と関わり」の強化	日誌等の記録点検から職員への関りを強化する。また、対象職員へヒアリングを行い効果の検証を行う	施設部門
	②職員のストレス緩和に向けた、柔軟性のある職員ユニット配置の実践	職員間の協力体制についてリーダー会議で検証し、ストレスが緩和できるように改善を図る	施設部門
	③働きやすい労働環境に向けた 5S 活動の推進	5S 活動の実践評価から、施設全体での取り組みについて明文化する	全部門
2. 利用者の拡大	①入居希望者の医療ニーズに対する受け入れ態勢の再構築	入居希望者が期待する医療ニーズの受け入れを検討する	施設部門
	②潜在的顧客に焦点化した出張 PR と、待機者管理方法の構築	出張 PR の継続と共に実施エリアの拡大を検討する	施設部門
	③更なる利用者獲得に向け、在宅サービスのエリア分析に基づいた PR 活動の強化	エリア分析を基に、アプローチ先や内容を定め、持続した PR を実施する	居宅部門 訪問部門

【清田区第1・第2地域包括支援センター（札幌市委託）】

[個別支援サービス]

重点項目	計画内容		事業区分
1.札幌市運営方針遂行の強化	①地区特性把握(地域アセスメント)のためのデータ蓄積と分析の標準化	「分析マニュアル」を活用し、全地区ごとの統計の分析に取り組む(継続)	包括機能
	②根拠に基づく目標設定及び取組計画の立案と効果的、効率的な計画推進の検討と実践	各地区連絡会議(区、包括、予防C、社協)で①のデータを活用し、地区特性に合わせた目標を策定し、PDCAサイクルを展開する(継続)	包括機能
	③2センター受託の強みを活かした協働と分担の再考による効率的・効果的運営の推進	2センターによるCore体制の強みを活かし協働で実施する事案と各センターで実施する事案を精査し取り組む(継続)	包括機能
2.対応力強化	①総合相談窓口機能と対応力向上(年度ごとに強化POINT・手法を検討)	地域住民への普及啓発の継続と、家族介護者支援におけるニーズ分析、及び介護者支援の視点の強化を図る	包括機能
	②各専門職における専門性強化のための体制構築(職種・経験別)	経験が異なる職員の担当制など、年単位でのOJT機能強化及び専門性の向上を図る	包括機能・介護予防支援
	③予防支援事業所としての役割の充実(介護保険理念に基づくケアマネジメントや法令遵守の強化、高齢者ニーズの把握等)	事例検討や個別地域ケア会議の活用により、多様な社会資源の活用を推進する(継続)	包括機能・介護予防支援
3.地域包括ケアシステムの推進	①関係機関(区・予防C・社協・生活支援C等)との地域アセスメントにもとづく地域支援の推進強化	関係機関との会議(地区連絡会議、区連絡会議)による取組が効果的・効率的な地域支援につながるよう検討する(継続)	地域支援
	②地域ケア会議の効果的活用及び推進(地域ケアシステムの充実のため)	区内介護支援専門員に対し個別地域ケア会議の活用を促進する(継続)	地域支援
	③区内組織(居宅・サービス事業所・民間サービス・病院・障がい者分野等)との連携強化による包括的継続的ケアマネジメントの環境整備(※)の推進	区内の組織担当者変更や制度改正も踏まえ、定期的に連携強化に向けた研修等の取組を実施する(継続)	地域支援

(※介護保険外の関わりも含め、包括的・継続的ケアマネジメントを可能にする体制を作り、個々の介護支援専門員が多職種・多機関と連携をとりながら高齢者を支える活動ができる環境を整備すること)

[地域包括支援（組織運営）]

重点項目	計画内容		事業区分
1.働きやすい環境づくり	①業務内容の合理化・ICT活用と業務量の平準化の推進	継続して業務フローの見直し、様式や方法の変更と共に、ICT活用できる業務を検討する。	包括機能・介護予防支援
	②職員同士の相談体制の構築や職場の課題解決のための取り組みの検討と実施	職員個々のチーム役割を明確化し、業務量の均等化と全職員による労働環境の改善を図る。（継続）	包括機能・介護予防支援
	③人材確保・コスト・平準化等に着眼した人員配置（年度ごとに強化 POINT・手法を検討）	離職防止を目的とした優先業務の明確化、効率化を検討する	包括機能・介護予防支援
2.法人内連携の強化	①法人内他部門との連携強化のため相互理解の促進	包括企画の研修等への参集やケース支援を通して各事業体との連携、関係構築を継続する（継続）	法人内連携
	②在宅サービス基盤整備のため法人部門との地域・高齢者ニーズの共有	懇談会や研修、ケース支援等を通して利用者ニーズの把握を継続し法人部門と共有する（継続）	包括機能・介護予防支援
	③緑愛園移転に伴う地域課題の分析と支援の検討	上北野町内会の活動のバックアップと移転後の課題についてアセスメントを継続する（継続）	包括機能・法人内連携
3.他機関連携	①教育機関との連携～実習受け入れと指導プログラムの評価	後進育成の為、定期的な実習受け入れと随時の指導プログラムの評価、見直しを継続する（継続）	包括機能
	②円滑な事業推進のための他分野を含む他機関連携の推進	他法人、多職種との連携の場（機会）に積極的に参画を継続し、連携強化を図る（継続）	包括機能